

ス テ ー ジ ア ッ プ

Stage Up

主な記事

- ・ 僕は笑いで世界を変える「フランポネ」
- ・ 防災・減災の知識と技を普及啓発「SL防災ボランティアネットワークかわさき」
- ・ 特集 川崎宿起立400年記念
NPO法人かわさき歴史ガイド協会と行く
六郷から川崎宿めぐり

詳細・他

- ◆ 施設めぐり
 - ・ 川崎市公文書館
過去・現在の歴史的事実を保存
 - ・ フロントタウンさぎぬま
関東最大級の
6面フットサルコート
- ◆ 財団からのお知らせ
 - ・ パラアート作品常設展示
 - ・ お楽しみコーナー
ほか



「Colors かわさき展」は、作者に障がいがあるか・ないかということにとらわれず、一つ一つ作品のありのままの魅力を感じてもらうことを目指す展覧会です。

障がいのあるなしに関わらず親しめる芸術文化活動の環境づくりに向けた「パラアート推進事業」の一環として、(公財)川崎市文化財団が年1回開催しています。



Colors かわさき 展より⑥ ^{みかみ} 三上 「海の哺乳類」 2022年 アクリル絵の具

一番最初にシロナガスクジラを描いた後、海で泳ぐ哺乳類で渦の中を進む絵を描くことにしました。イメージは深海から餌を食べに上がって来ている雰囲気を出しています。上から見て水面にも海面にも動物がいる景色を作りたくてラッコも描きました。鮮やかさも出しています。(本人)



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町 28 番 41 号

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

https://www.kpal.or.jp E-mail: stage-up@kpal.or.jp



僕らは笑いで世界を変える 「フランポネ」



◀左：マヌーさん
川崎市中原区出身
元商社マン、5ヶ国語（英・仏・西・伊・蘭）が堪能

右：シラちゃん
スイス人（ジュネーブ出身）、母国語はフランス語

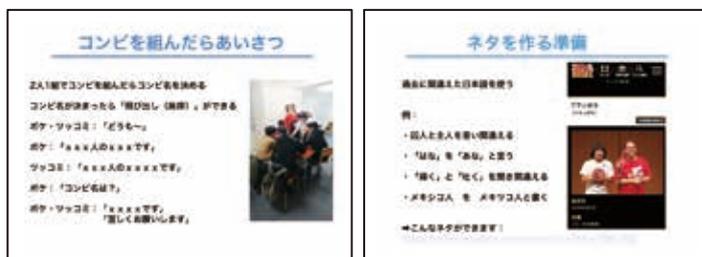
フランポネは、中原区出身のマヌー(島岡学)さんと妻シラちゃんの、日本で唯一フランス語で漫才ネタができるコンビです。吉本初の国際夫婦漫才コンビのお二人は、「笑いの力」で社会問題を解決に導こうと精力的に活動しています。

結婚を機に来日したシラちゃんは日本語学校に通っていましたが、文法中心の授業に限界を感じ、日本に住む外国人への日本語教育の難しさに直面しました。その後、芸人を目指してNSC(吉本興業の養成所)に入学し、台本なしでしゃべる訓練をするうちに日本語が上達していったそうです。その実体験から、「漫才」を作りながら日本語を勉強するアクティブラーニング、『漫才で覚える日本語』を発案しました。

進化する『漫才で覚えるシリーズ』

『漫才で覚える日本語』は、①漫才の実演 ②生徒同士でコンビを組む ③コンビ名を決める ④簡単な漫才を作る ⑤授業の終わりに生徒が作ったネタを披露という流れで授業が展開する、日本に住む外国人向けのプログラムです。日本語教育関係者からは、「読む・書く・聞く・話す能力を駆使して『漫才』を作るので、学習する上で効果的である」と評価されています。

マヌーさんは、「基本的な漫才の作り方の理論に合わせれば、どんなテーマでも漫才にできてしまう」と話します。『漫才で覚える英語』『漫才で覚えるフランス語』『漫才で覚えるスペイン語』といった日本人向けの外国語教育、さらに、『漫才で覚えるSDGs』『お笑いを通じた障害者交流』『国際交流漫才』と、どんどん守備範囲を広げて進化していく『漫才で覚えるシリーズ』。フランポネは、語学が堪能な芸人仲間とチームを組んで全国を飛び回り、大学や自治体のイベントで授業を行っています。



▲授業で使用するスライド。漫才について順番に分かりやすく解説。

子どもたちの変化に先生も驚く 小学校でのお笑いを取り入れた授業

今年2月、フランポネのお二人と、日本で唯一スペイン語でネタができる芸人の藤田ゆみさんが東住吉小学校を訪れ、当時の5年生(85人)を対象に、クラブ活動を下級生に紹介する集会に向けて各クラブの発表内容を指導しました。実は、片山純子校長はマヌーさんが中原小学校5年生の時の担任。昨年、子ども向けの漫才授業を考えていたマヌーさんが片山校長に連絡し、6年生(当時)への演劇指導が実現しました。その際に子どもたちの表現力が驚くほど高まったことから、ぜひ5年生にもと、急遽今回の指導が決まったそうです。

最初に20分程度全体で授業を受けた後、各クラブに分かれて発表の練習。3人は各クラブを回って丁寧にアドバイスしていきます。体育館で、アドバイスをもとに、皆の前でできているところまでを発表しましたが、どのクラブも大きな声で堂々と発表できました。「プロの前だから緊張した～」と話す子どもたちの目は、キラキラ輝いていました。



▲スライドでポイントを提示しながら実演して解説。ユーモア溢れる内容に笑いながら、子どもたちの目はくぎ付け。



▲クラブの活動内容に寄り添った丁寧な指導に、子どもたちも真剣に耳を傾ける。

活用の場面は無限「お笑いの力」

「川崎市の子どもたちに英語で漫才を作ってもらって、それを姉妹都市であるオーストラリアのウーロンゴン市とかアメリカのボルチモア市とかの子どもたちに見せる。そうするとお笑いを通じた姉妹都市交流ができます。また、お住まいの区をテーマにした漫才を作って区民祭などで披露すれば、まちづくりや地域おこしにもつながりますよね」と力強く語るマヌーさん。「お笑い」は、川崎のためにも力を発揮してくれそうです。難しそうな題材でも、お笑いの力を利用すれば取り組みやすくなるのかもしれないですね。誰もが簡単に参加することができ、特別な道具や場所は必要なし。そして何より面白い！この活動がさらに広まっていくことを期待しています。

■フランポネ 国際夫婦漫才コンビ

(所属：吉本興業株式会社)

メールアドレス manabu_shimaoka@hotmail.com



日本語



フランス語



フランス語

防災・減災の知識と技を普及啓発 「SL 防災ボランティアネットかわさき」



▲代表の佐藤元男さん

災害は、突然やってきます。経験なき事態に遭遇するとき、私たちはパニックに陥らず、落ち着いて行動することができるでしょうか。

阪神・淡路大震災の教訓から、首都圏での大災害に対応できるボランティアを育てようという機運が高まり、公益財団法人 SL 災害ボランティアネットワークが立ち上がりました。SL とは、災害救援ボランティア推進委員会が主催する「災害救援ボランティア養成講座」を終了して、セーフティリーダー(SL)の認定を受けた人を言います。SL として川崎で活動するメンバーで構成された SL 防災ボランティアネットかわさき(通称「SL 川崎ネット」)は、地域の防災リーダーとして、「自分の命は自分で守る」を理念として、防災の「基本知識」や「使える技」を習得し、広く市民に普及・啓発する活動を行っています。現在のメンバーは12名、男性8名、女性4名です。代表の佐藤元男さんにお話を伺いました。

「自分の命は自分で守る」

活動の軸足は、災害救援と、市民に対する啓蒙活動の2本。啓蒙活動というのは啓発し、教え導くこと。しっかり勉強してボランティアとしてのスキルアップを図りながら、災害が起きた時にはいち早く被災地に駆け付けます。2019(令和元)年10月、台風19号によって多摩川周辺の地域で浸水被害が発生したことを皆さんは覚えていますか。この災害では、被災者救援のために、川崎市で初めて災害ボランティアセンターが設置されました。佐藤さんは運営スタッフとして32日間活動し、延べ30人のSLメンバーが救援活動に参加しました。

「自分の命は自分で守る」

被災地支援に行くと、被災した人たちをだれも助けはくれないということがいやというほど分かるのだそうです。突発的に発生する激甚な災害への行政主導の対策には限界があり、住民主体の防災対策が必要だと考えられています。具体的には、普段から災害リスクや避難行動等について把握し、地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行って地域の防災力を高めること。そして、災害時には自らの判断で適切に避難行動をとることです。SL 川崎ネットは、いざという時に市民が自分でできることを考えるための防災講座を実施しています。

被災地支援に行くと、被災した人たちをだれも助けはくれないということがいやというほど分かるのだそうです。突発的に発生する激甚な災害への行政主導の対策には限界があり、住民主体の防災対策が必要だと考えられています。具体的には、普段から災害リスクや避難行動等について把握し、地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行って地域の防災力を高めること。そして、災害時には自らの判断で適切に避難行動をとることです。SL 川崎ネットは、いざという時に市民が自分でできることを考えるための防災講座を実施しています。

SL 川崎ネットの防災講座

小学5～6年生に向けた子供防災講座では、ナマズの学校という災害に関するシミュレーションクイズを行います。これは面白くてためになると、子どもたちから評判が良いそうです。防災マップを作ろうは、自分の家を中心とした災害リスクの防災地図、自分だけの地図を作る講座です。作成した地図を中心に、「もしもの時」について家族で話し合う光景が目に浮かぶことができます。主婦を対象とした災害時の炊飯講座や、親子を対象とした子育てファミリーの防災講座など、いろいろな講座があり、幅広く対応できる体制を整えています。

SL 川崎ネットの講座の特徴は、2～3枚のレジュメを使ったお話中心ではなく、1年後でも2年後でも、それを読めば思い出せるようなしっかりとした資料を作り、それを持ち帰ってもらうこと。何度も打ち合わせを行い、対象となる学校や町会の周囲にどのようなリスクがあるかを調べ、20頁くらいの資料を、対象者に合わせて作成します。手間暇かけたオーダーメイドだと聞いて驚き、頭が下がる思いがしました。



▲防災訓練指導



▲防災講座
マイタイムラインをつくる

できる時に できることを できるだけ

「災害をなくすことはできません。だけど、備えれば、被害も悲しみも小さくできます。皆さんには、できる時に、できることから、できるだけ、備えてほしいです」と訴える佐藤さん。ボランティア活動は、暗闇の中で灯りをともす活動のようなものだと思います。「人のために灯りをともすと自分の目の前も明るくなり、たくさんの人のために灯りとともすと自分の周りが光り輝く。人のためにやることですが、自分の喜びとして跳ね返ってくる」とも言っていました。最近では60歳以降も働き続ける人が多くなり、ボランティア活動をする人がなかなか増えないことが課題とのことですが、SL 川崎ネットの皆さんの活動は、地域で暮らす人々のもしもの時への備えに大きな影響を与えていると思います。共感する方が活動に加わり、これからも多くの市民に「防災」「減災」のためにできることを伝え続けてくださることでしょう。

■SL 防災ボランティアネットかわさき

代表 佐藤 元男

電話 090-2557-2328

(午前8時から午後10時)

メールアドレス mottotto310@nifty.com



特集 川崎宿起立 400年記念 NPO 法人かわさき歴史ガイド協会と行く 六郷から川崎宿めぐり

川崎宿は1623(元和9)年に東海道五十三次では最後から2番目に宿駅として設置され、今年で400年。江戸後期には、人口2,433人、家数541戸、本陣2軒、問屋場1軒、旅籠72軒という記録があるように、東海道を歩き交う人々、川崎大師に参詣する人々で大変賑わった宿場町でした。関東大震災、川崎大空襲などを経て、かつての面影は薄れたかもしれませんが、当時に思いを馳せながら、川崎宿をめぐるまち歩きも楽しいことでしょう。

今号では、NPO法人かわさき歴史ガイド協会から、副理事長の藤田智恵子さん、前理事長の中村紀子さんにご協力いただいて、対岸の六郷から多摩川を渡って川崎宿をめぐる、3~4時間のコースをご紹介します。ゴールの東海道かわさき宿交流館で、たどってきた行程を振り返るのもいいですね。

～ コース紹介 ～

京急川崎駅……電車……六郷土手駅 **START!**

北野天神(通称「止め天神」)

8代将軍徳川吉宗公の落馬を止めたことから「落馬止め天神」と呼ばれる。空襲ですべて消失したが、1983(昭和58)年に再興され、多くの人たちに崇敬されている。

観乗寺

1624(寛永元)年、善恵院日経上人が開創した日蓮宗の寺院。

六郷一里塚跡

日本橋から約15.6kmにある4番目の一里塚。

六郷神社

江戸時代は八幡神社、1876(明治9)年より六郷神社と称す。境内には、源頼朝が寄進したといわれる手水石や、梶原景時が寄進したと伝えられる石の太鼓橋などがある。

(児童公園に公衆トイレ有)

六郷の渡し跡

六郷川(多摩川)には1600(慶長5)年に徳川家康によって「六郷大橋」がかけられたが、洪水のたびに修復やかけ直しを繰り返し、1688(貞享5)年の大洪水で橋が流出した後は舟渡しとなった。

万年横丁・大師道跡

かつては国道15号の下あたりに万年屋があり、「従是 弘法大師江之道」と刻まれた道標が店の脇に立っていた。1839(天保10)年に万年屋当主半七が世話役となって万年屋から医王寺までの道を整備して以来、この道を「万年横丁」というようになり、万年横丁から平間寺山門までを「大師道」といった。万年屋脇にあった道標は、現在、川崎大師平間寺境内に保存されている。

万年屋跡

名物奈良茶飯(茶飯に豆腐汁)の大ヒットにより、宿内一の茶屋に発展。川崎大師への参拝客で大いに賑わった。

田中本陣跡(田中休愚)

宿開設5年後の1628(寛永5)年に建造。建坪は231坪で、幕末まで続いた。農政家として有名な田中本陣の田中休愚は、1704(宝永元)年に家督を継ぎ、本陣・宿名主・問屋の三役を兼務。1709(宝永6)年、幕府からの助成金と六郷川渡船請負権を得て、宿開設以来、伝馬負担などで困窮していた宿場財政を立て直した。

一行寺

浄土宗の寺院で、1631(寛永8)年に念仏道場として創建。田中本陣が火急の際は宿泊所に充てられた。別名「閻魔寺」。

宗三寺

曹洞宗の寺院。創建年代は不詳だが、川崎宿で最も古い寺であるといわれている。

稲毛神社

川崎宿の鎮守として盛大な例大祭が行われていた。今でも8月初旬に川崎山王祭が行われている。境内には、小土呂橋遺構、田中休愚ゆかりの手洗石、現存する宿場時代の唯一の建物である子神社(ねのじんじゃ)、樹齢千年を超えるといわれる大銀杏などの史跡、松尾芭蕉、佐藤惣之助など川崎ゆかりの文人たちの記念碑がある。

東海道かわさき宿交流館 **GOAL!!**

川崎宿



NPO 法人かわさき歴史ガイド協会

NPO 法人かわさき歴史ガイド協会は、川崎区を中心に歴史・観光のガイド活動を行っている団体です。2000(平成12)年に川崎市初の本格的ガイド団体「かわさき大師観光ガイドの会」として発足、2004(平成16)年に法人化し、名称を現在の「かわさき歴史ガイド協会」と変更しました。ガイド養成講座などを受講したメンバーが78名所属し、精力的に活動しています。

主な活動は、大師境内、大師観光案内所、東海道かわさき宿交流館内で行う拠点ガイド、小学生の総合的な学習の時間のお手伝いをする学校ガイド、行政などによるイベントのお手伝い、かわさき歴史ガイド協会で開催する企画ガイド、依頼を受けて案内する依頼ガイドです。

長らく、川崎の宿場まちを中心に散策する「川崎宿めぐり」と、川崎の歴史をたどりながら、厄除け大師として親しまれている川崎大師平間寺まで散策する「大師道めぐり」の2コースを中心にガイド活動を行ってききましたが、近年は依頼に応じてアレンジするため、新たなコースが次々に加わっています。



▲参加者に渡すまち歩き資料は、これまでの2種類からコースの数だけ増加中。

「川崎区の鉄道150年」「工都川崎発祥の地を訪ねて」「川崎駅周辺の街の移り変わりを歩く」など、魅力的な散策コースのラインナップに目移りします。

取材中、各コースについて楽しそうに解説してくださった藤田さんは、「私たちは依頼主の希望を聞いて、満足いただけるようなコースを準備するべく頑張ります。新たなコースを開拓していくのは私たちの学びにつながり、楽しみでもあります」とにっこり。

中村さんは今後について、「川崎の歴史は工業の発展を抜きに語れません。大師方面から臨海部の勉強もしていきたいと考えています」と話していました。



▲横浜製糖護岸壁前でガイドする様子。

■NPO 法人かわさき歴史ガイド協会

電話/FAX 044-221-9117

メールアドレス kawasaki-gaido@bz04.plala.or.jp

中原区

川崎市公文書館

JR南武線「武蔵中原駅」から徒歩約15分
JR南武線・東急線「武蔵小杉駅」からバスで約10分



▲写真の右側が書庫。書庫延床面積は1,245.60㎡、書架総延長は11.27km。

等々力陸上競技場や等々力球場、とどろきアリーナなど多くのスポーツ施設があり、四季折々の自然にふれることもできる等々力緑地の入口に、重厚な造りで落ち着いたたたずまいの川崎市公文書館(以下「同館」という)があります。同館は、歴史的文化価値のある公文書や資料を適正に保存し、有効活用するとともに、市民生活の場に関する情報を中心とした統合的な情報公開を推進することを目的として、1984(昭和59)年に開設されました。

過去・現在の歴史的事実を保存

公文書とは、公務員が職務上作成した文書を言います。同館は中間書庫として、保存期間が5年以上の現用公文書を保存期限まで集中管理する業務を効率的に行っています。的確に分類整理して保存することで、公文書が散逸することを防ぎ、行政文書を迅速・確実に参照できるようにしています。保存期限を迎えた公文書から、歴史的文化的価値のある公文書(歴史的公文書)を選別し、行政記録の一次資料を将来にわたり保存していきます。

歴史的公文書は、個人情報等利用制限情報を除き、閲覧することができます。

公文書のほか、市が発行した刊行物などの市政資料、「川崎の空襲・戦災の記録」に関する戦災資料、市史編さん時の資料、複製古文書を保存し、利用に供しています。また、同館では川崎に関わる歴史的資料の収集・調査を行っており、市民から寄贈寄託された資料も保存しています。

紙の原本は閲覧時に破損したり劣化が進行したりするので、原本の保存の意味からも資料のデジタル化を進めているそうです。



▲歴史的公文書
【軍隊駐屯二付申請】
大正12年10月13日
戒嚴司令官山梨半造宛て
川崎町長申請



▲寄贈資料等の紹介を行う展示コーナー
『齊藤博家旧蔵資料』
明治28年3月7日
相浦紀道宛て谷干城書簡

所蔵資料を利用した講座の開催

同館が所蔵する古文書類の歴史資料等を教材にして各種講座が開催されています。資料から読み取る川崎市の歴史をテーマに、所蔵されている資料を読み解きながら講義を受ける**歴史講座**、川崎の歴史について学ぶ**歴史講演会**、古文書を読めるようになりたい方のための**古文書講座**があります。古文書講座には、初めての方が対象の入門編と、初見でおおよその内容がわかるレベルが対象の中級編があり、入門編はいつも抽選になるほど人気があるそうです。歴史講座、



▲古文書講座の様子

歴史講演会、中級古文書講座は外部から講師を招聘しますが、入門古文書講座の講師は、「歴史学で社会貢献したい」という歴史担当職員が務めています。歴史担当職員は、多くの方が歴史に関心を持つきっかけになればと、館内展示にも工夫をこらしています。

皆さんにとってより身近な施設に

職員の皆さんにお話を伺うと、「市政や地域の歴史を振り返る時に歴史的公文書は貴重な情報であり、市民の共有財産。歴史的公文書を適切に保存することは、知る権利や将来の市民への説明責任に応えることになる」と胸を張りつつ、「もっと皆さんが立ち寄りやすい施設になれば」とのことです。等々力緑地を散歩中にふらっと寄って展示を見たり、市内で行われるイベントのチラシなどの配架物を手に取って情報を収集したりするなど、気軽に利用してほしいとのこと。

市政資料閲覧室の膨大な資料は、資料を見つけやすいように分類されていて、子ども達の調べ学習にはうってつけの場所です。地域の歴史に興味があるけれど、どこから手を付けようか…という方は、ぜひ川崎市公文書館に足を運んでみてください。心躍る発見があることでしょう。



▲特設コーナー
NHK「どうする家康」の放送に合わせて、家康関連入国後の川崎地域の解説や家康に関する参考文献などを紹介



▲市政資料閲覧室の様子

■川崎市公文書館

〒210-0051 中原区宮内 4-1-1
電話 044-733-3933 FAX 044-733-2400
メールアドレス 17koubun@city.kawasaki.jp

利用案内

開館時間 午前8時30分～午後5時
休館日 月曜
祝日法に定める休日(休日が月曜日に
当たるときは休日の翌日も休館)
年末年始(12月29日～1月3日)

入館料 無料
※探したい資料について、来館前に電話、FAX、メールで相談すると、資料探しがいりスムーズになります。



宮前区

フロンタウンさぎぬま

東急田園都市線「鷺沼駅」北改札出口から 徒歩約3分

▲小学生フットサル
クリニック

個人参加フットサル▶



関東最大級の6面フットサルコート

フロンタウンさぎぬまは、“カップーク鷺沼”の運動施設ゾーンにあります。鷺沼駅北改札出口を出て右、線路沿いに少し行くと入口に到着。5,697㎡の敷地には、天然芝に近いフィールドターフ人工芝のフットサルコート6面に、シャワーブース付き更衣室、トイレ、多目的に利用できるミーティングルームなどを備えたクラブハウスがあり、照明器具も設置されているため夜間のプレーも可能です。

登録しているチームは300~400ほど、個人でも5,500人ほどが会員登録しています。施設全体の延べ利用者数は年間約8万人と、幅広い年齢層の皆さんがフロンタウンさぎぬまで楽しい時間を過ごしています。

プログラムに参加してフットサルを楽しむ

仲間と一緒にチームでコートを利用するほか、施設主催のプログラムに参加してフットサルを楽しむことができます。

各種フットサル教室は6回1セットで年5クール開催しています。なかでも、MIXフットサルクリニック(大人の男女初心者向け)は毎回抽選になるほど人気のプログラムで、リピーターも多く、なかには10年以上続けている方もいるそうです。

自分の都合に合わせて気軽に参加できる個人参加フットサル(個サル)は、当日集まったメンバーでチームを作って、繰り返し試合をするプログラムです。特に人気があるのは土日の朝開催しているOVER-40(40歳以上男女)の個サル。30日前の午前0時から予約開始となるのですが、5分から10分後には予約が埋まってしまうのだとか。

フットサルとサッカーのちょうど中間くらい、7~8人制でプレーするソサイチは、日曜夜に個サルと同じような形で開催しています。フットサルコートを3面、フットサルゴールを2つつなげて大きくして、ソサイチ専用ボールでゲームをします。ソサイチはフットサルよりも運動量があるので、参加者は20~30代が多いそうです。

昨年、サッカーワールドカップ日本代表に4人もの選手を輩出し、その選手たちの大活躍によって一躍街の知名度が上がった『鷺沼』。鷺沼には、川崎フロンターレが運営する「フロンタウンさぎぬま」があります。「ホームタウンである川崎市に、家族や地域で気軽に楽しめ、より身近に感じていただけるフットサルの場や機会を設けることで、フロンターレの“街”を広げていきたい」との思いから、2006年3月に設立されました。

フットサルだけじゃない！
フロンタウンさぎぬまの楽しみ方

この施設ではオープン当初からヨガ教室などの健康事業も展開してきました。会員登録不要のフロンタウンフィットネスは、おしり体操!、メガダンス、ボクササイズなど、多彩なプログラムがあり、1回ごとに参加費を払えばよいので気軽に参加できることが魅力の一つです。平日のプログラムは50~70代の女性の参加者が多く、土曜の男ヨガはOVER-40の個サル後に参加する方も多そうです。

金曜日の9時~15時は1人510円でグラウンド・ゴルフ打ち放題! 60~80代の方が、クラブハウスで休憩しつつ、ゆったりと楽しんでいます。月に1回、フットサルコート4面分を開放し、8ホールを2コース用意して大会を開催しています。

親子、参加者同士のコミュニケーションのパイプ役となり、孤育て(こそだて)支援につながればと、今年4月には宮前区と展開しているスポーツ推進事業の1つ、キッズパークを開催しました。2回目も考えているそうです。また、コロナ禍には開催できなかった夏祭りも今年は企画しているそうです。

支配人の大木さんは、「お散歩の休憩がてらコーヒーを飲んでゆっくり…という利用もウェルカム。気軽に立ち寄れる、居心地のよい施設を目指しています」と言います。隣の鷺沼ふれあい広場で遊んだ後や、フロンタウンさぎぬまのプログラムに参加して汗を流した後に、名物の焼き芋で疲労回復というのはいかがでしょうか。

冷やし焼き芋もあります♪▶



▲メンテナンスヨガ



▲男ヨガ



▲グラウンド・ゴルフ



■フロンタウンさぎぬま

〒216-0005 宮前区土橋 3-1-1

電話 044-854-0210

(受付時間 午前10時~午後8時)

営業時間 午前9時~午後10時

(年末年始及び年数回不定休あり)



※詳細はフロンタウンさぎぬまのホームページでお確かめください。

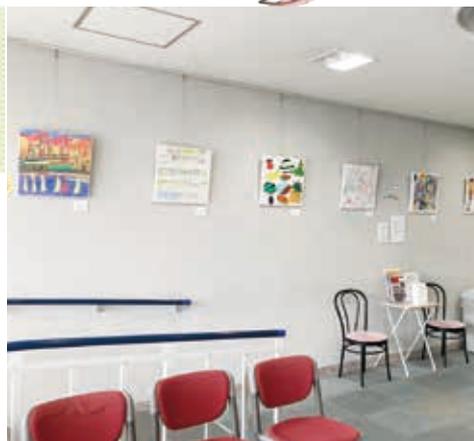
パラアート作品常設展示

川崎市生涯学習財団では、公益財団法人川崎市文化財団が目指す「障がいのあるなしに関わらず芸術文化活動に親しむことができる環境づくり」に協力し、「パラアート作品常設展示」として、市内の障がいのある方が制作した作品を、年間を通して展示しています。市民の方々に気軽にパラアート作品にふれていただくことができるよう、開館中はいつでもご鑑賞いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

生涯学習プラザ
4階ロビーで
展示中!

■7月～9月展示予定■

「社会福祉法人 長尾福祉会セルブきたかせ（幸区）」
所属アーティストの作品



▲4月～6月展示
「社会福祉法人 みのり会（宮前区）」
所属アーティストの作品

多様なイベント情報を発信中!
かわさきパラアート情報サイト
「ぱらあーとねっと」

■作品や出展に関するお問い合わせ
公益財団法人川崎市文化財団
電話 044-272-7366



プラザ入口の展示スペース 「ウェルカム・ギャラリー」



ご自分の作品を飾ってみませんか

地域で活動する個人や団体に、展示スペースを無料でお貸しいたします。芸術・文化の発表の場としてご使用ください。設営・撤去を含めて1か月間お貸しいたします。

こんな使い方も OK です

- ・「作り方を習いたい方は、こちらまでご連絡ください」と名刺を置く
- ・「サークル〇〇でこれらの作品を制作しました。興味のある方はサークルのホームページをご覧ください」と URL や QR コードを掲示する

■(公財)川崎市生涯学習財団 総務係
電話 044-733-5811
メールアドレス jyoho@kpal.or.jp



◆お楽しみコーナー

Stage Up 246号クイズに答えよう!

等々力緑地の入口にある川崎市〇〇〇〇は
1984（昭和59）年に開設されました。
下の〇にあてはまる言葉を入れてください。

『川崎市〇〇〇〇』 ※ヒント p.6

【応募方法】



QRコードを読み取り、解答フォームへアクセス、または、①答え ②〒・住所 ③氏名 ④Stage Upの入手場所⑤今号の誌面でよかった記事（理由）を書いて、はがき、FAX、Eメールで担当宛、応募してください。

※締切 2023年8月14日（月）必着

※正解 ホームページ及び次号に掲載

※正解者3名に500円の図書カードを贈呈
（発表は発送に代えさせていただきます）

〒211-0064 中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習財団 Stage Up（ステージアップ）担当

Eメール: stage-up@kpal.or.jp

TEL 044-733-5811 FAX 044-739-0085

※個人情報、発送業務以外の目的では使用しません。



☆245号のクイズの答え・・・かわさき